

行事予定

2022(令和4)年9月～12月

【特別展／企画展】

2022年 8月1日(月)～11月下旬
2022年度産官学連携サテライト展示Ⅱ
「禁教期のキリスト教を語るマテリアル」
[場所] 南島原市原城図書館

2022年 9月19日(月)～2023年1月14日(土)
2022年度企画展Ⅱ
「キリスト教美術をみつとくーキリスト、聖母、聖人ー」
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室

2022年 11月19日(土)～2023年1月13日(金)
2022年度博物館実習成果展
[場所] 西南学院大学博物館1階常設展示室

2022年 12月上旬～2023年4月頃
2022年度産官学連携サテライト展示Ⅲ
「『読む』キリスト教ー初めに言葉があったー」
[場所] 南島原市原城図書館

【休館】

毎週日曜日

9月15日(木)～17日(土)

12月28日(水)～2023年1月5日(木)

行事予定は日程、内容等が変更する場合がございます。
各イベントの詳細につきましては博物館ホームページをご確認ください。

編集後記

春から大学のキャンパスでは学生たちが集い学ぶ姿がみられ、なんだかとても久しぶりのように感じました。博物館を訪れてくれる学生や来館者の方々も徐々に増えてきて嬉しく思っておりますが、秋からはどうなるのでしょうか。博物館での展示や催しも情勢にあわせて対応し、すこしでも安全で楽しい学びが得られるように私たちが頑張っております。

学芸研究員 山尾 彩香

西南学院大学博物館

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00 (入館は17:30まで)

休館日 / 毎週日曜日、夏季休暇 [8/10～8/16]、キリスト降誕祭 [12/25]、年末・年始 [12/28～1/5]、そのほか臨時休館あり

入館料 / 無料

[seinamuseum](https://www.facebook.com/seinamuseum) [@seinan_museum](https://twitter.com/seinan_museum) [@seinan_museum](https://www.instagram.com/seinan_museum)

来館者掲示板

【来館者の言葉】

キリスト文化に興味があり、いろいろとみてきましたが、創られたキリスト像という視点では見たことがなかったので、とても勉強になりました。(2022年 3月)

私は今年度で卒業するのですが、この4年間とても楽しませていただきました。展示品はもちろん、館内の雰囲気がすばらしく、心に栄養を与えてくれました。卒業後も時間の許す時に必ず来館しますので、また楽しい企画展をよろしく願いいたします。ありがとうございました!(2022年 3月)

インクナブラの装飾や色、金がすごくきれいで工芸品のようでした。薄くなったインクも美しい……手フートの体験ができて、より一層活版印刷術が貴重なのだと実感できました。確かにこれは“文化”ですね!有難うございました!(2022年 6月)



当館では3月から5月にかけて「創られたキリスト像(イメージ)ー排耶書と実録のなかのキリストー」、6月から8月にかけて「印刷文化の黎明ーインクナブラからキリスト版までー」を開催し、多くの方々にご来館いただきました。9月19日からは「キリスト教美術をみつとくーキリスト、聖母、聖人ー」を開催いたします。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

学芸調査員 栗田 りな

アクセスマップ ACCESS MAP



- 地下鉄
 - 福岡空港 → 西新駅下車……約17分
 - 博多駅 → 西新駅下車……約12分
 - 天神 → 西新駅下車……約8分
 - ※地下鉄西新駅(③番出口)から徒歩5分
- バス
 - 博多駅バスセンター → 修猷館前……約35分
 - 天神 → 修猷館前……約20分
 - ※修猷館前バス停から徒歩5分
- タクシー
 - 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学……約25分
 - 博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学……約20分
 - 天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学……約15分

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 46 2022.9

西南学院大学

所蔵品紹介 ジンボトル(天保四年箱付き)

大学博物館のお仕事② 「大学博物館で働く人 ー学芸調査員編ー」

博物館通信 「大学チャペル関連資料群を展示中」ほか

展覧会紹介 「キリスト教美術をみつとくーキリスト・聖母・聖人ー」ほか



所蔵品紹介 特集

ジンボトル(天保四年箱付き)

Gin bottle (Accompanied by a box in Tenpo 4)
18世紀(1833(天保4)年)／オランダ(日本)／ガラス製(木製)
法量:底径10.5cm×高さ27.0cm

本資料は、18世紀にオランダで生産されたジンボトルです。日本国内における伝世品で、ジンボトルが丁度収まる箱が付属しています。箱の上部には取っ手の跡のようなものがあります。そして蓋の裏には、「天保四年巳十二月調之」と墨で記されており、その左斜め下にもさらに墨で書かれていたような跡がありますが表面が削り取られています。おそらく元所有者の個人名が書かれており、手放す際に削り取ったものと思われます。本資料のような箱付きのジンボトルは、神戸市立博物館にも伝世品が知られており、そのほかにも同様の例が複数伝世していると考えられます。

このような形のガラス製の瓶には、主にオランダでつくられていた蒸留酒である「ジェネバ(Geneva)」が入れられていました。ジェネバは17世紀の中ごろオランダのライデン大学で薬として開発され、その後、酒としてオランダ全土に広まりました。その後イギリスにおいても「ジン(Gin)」としてつくられるようになります。出島和蘭商館跡(長崎市)における発掘調査では、ジンボトルの破片が大量に出土しており、出島に滞在していたオランダ東インド会社の社員らがジェネバを持ち込んで日常的に飲んでいたと考えられています。またジンボトルは、出島の様子やオランダ人の食事風景を描いた絵画にもたびたび描かれており、オランダ人の生活



▲ジンボトルと箱

▲蓋の裏

に欠かせないものであったことが分かっています。

舶来の酒瓶は当時の日本人にとっては大変珍しく、異国趣味的なものでした。そのため、出島において中身が消費された後、その空き瓶自体が貴重なガラス製品として出島の外へ流通していました。海へ捨てられた空き瓶を長崎の人々が拾って市中で売っていたという話や、出島出入りの役人が駄賃代わりに空き瓶を要求していたという話、空き瓶を桐箱などに納めて贈答品にしていたという話などが知られています。それらの空き瓶は、花瓶として使われたり、茶席で使われたりしていたようです。本資料も、中身が消費された後の空き瓶のみが出島の外へ流通し、のちに瓶に合うような箱がつけられて大切に使用されていたものと考えられます。

学芸研究員 鬼東 芽依

SEINAN GAKUIN
大学博物館のお仕事 Ⅱ

大学博物館で働く人 —学芸調査員編—

学芸員とは、博物館で働く国家資格をもった専門職員のことです。当館の学芸調査員は、学芸員資格を取得あるいは取得中の大学生・大学院生の学生アルバイトです。大学博物館の使命のひとつに学生教育がありますので、博物館での実務経験の機会を創出しています。博物館で学生たちがどのような仕事をしているのか、現場の声を紹介します。(山尾)

学芸調査員としての仕事内容は、展示室における温湿度の管理や刊行物の執筆作業、企画展の企画設営など多岐にわたります。「学芸員」としての仕事を、学芸員の先生や学芸研究員の先輩方に教えてもらいながら実践的に学ぶことができる環境です。

特にやりがいを感じていることは、自分で展示を企画し、調査して発表する機会が与えられていることです。担当になった時には、企画書や展示図面の作成、調査、設営にいたるまで、丁寧に指導を受けながら実際の学芸員としての仕事に携わることができます。学生としての見方を取り入れた展示ができる所に、大学博物館で働く学生アルバイトとしての魅力があると思います。

来館された方々から展示の内容や館内の雰囲気についてお言葉をいただくと、日々の業務が成果に繋がっていると改めて感じ、一つ一つの仕事の大切さを実感することができます。



学芸調査員 山本 恵梨

担当したサテライト展示(西南学院大学図書館)

博物館通信

2022年6月から8月にかけて行われた博物館活動の中からいくつかをご紹介します。

西南学院大学博物館では、2022年6月から8月にかけて、企画展「印刷文化の黎明—インクナブラからキリシタン版まで—」を開催しました。福岡市の活版印刷所文林堂様にご協力頂いた「活版印刷機で印刷体験!!」の常設ワークショップでは、「貴重な体験

ができた」とのコメントを多数いただきました。関連講座として、開講した印刷博物館学芸員による出前授業は、久しぶりの対面のイベントでしたが、多くの方に集まって頂くことができました。

学芸調査員 勝野 みずほ

- 2022年4月21日(木)~2022年10月
官学連携サテライト展示
令和4年度相互貸借展示I
「絵図から見る島原・天草一揆と幕府軍」を開催中です。
- 2022年5月16日(月)~2022年9月14日(水)
博物館常設展ニュース展示「十字文罫」を展示しました。
- 2022年6月6日(月)~8月8日(月)
2022年度企画展I「印刷文化の黎明—
インクナブラからキリシタン版まで—」を開催しました。

- 2022年6月6日(月)~8月8日(月)
ワークショップ「活版印刷機で印刷体験!!」を実施しました。
- 2022年7月2日(土)
企画展関連イベント
印刷博物館出前授業「印刷の世界史」を開講しました。
- 2022年8月17日(水)
せいなんおでかけワークショップ(南島原市原城図書館)
「テラコッタねんどで土器・はにわづくり」を実施しました。



展覧会紹介

次回開催

2022年度 西南学院大学博物館企画展Ⅱ

やさしいキリスト教展シリーズ
キリスト教美術をみとく

—キリスト・聖母・聖人—

会期/2022年9月19日(月・祝)~2023年1月14日(土)

会場/西南学院大学博物館1階特別展示室

主催/西南学院大学博物館

世界で最も多くの人々が信仰しているとされるキリスト教。しかしキリスト教の文化や芸術は、教派や地域によってさまざまです。やさしいキリスト教展シリーズは、古今東西、キリスト教に関する事柄や分野を、博物館のコレクション

とともに分かりやすく「みとく(見解く、味得)」企画展です。今回のテーマはキリスト教美術です。



ヨーロッパにおける美術の主流はおおよそキリスト教です。その歴史は古く、2世紀末から1500年以上にわたって、時代的にも地域的にも多種多様に発展してきました。それはヨーロッパに限らず、キリスト教が世界に布教されるとともに世界各地でも受容され、独自の様式を生み出していきました。キリスト教美術は世界中で鑑賞できる巨大ジャンルでもあるのです。キリスト教美術はポイントをつかめば「なに」が描かれているのかわかる美術でもあります。本展覧会では、キリスト教の主要な人物であるイエス・キリスト、聖母マリア、諸聖人に注目してキリスト教美術をみときます。

